



.....
前橋商工会議所 まちづくりビジョン

.....
2022-2025
.....

Well-beingな前橋

～暮らしやすいまち





はじめに

Well-beingな前橋を目指して

～前橋商工会議所 まちづくりビジョン改訂にあたって

前橋商工会議所ではこれまで、『県都にふさわしいまちづくりの推進』『地域中小企業への積極的な経営支援』『安心・安全・快適なまちづくり』の3つの基本方針のもとに地域総合経済団体として、会員企業をはじめ行政や大学、民間企業等の皆様と連携して様々な事業に取り組んでまいりました。地域が抱える諸課題に対して、具体的な取り組みの方向性をまとめるべく、2013年に「前橋商工会議所 まちづくりビジョン」を策定しました。策定したビジョンは、持続可能な前橋地域の発展の方向性を提示するものとして、当所が取り組んでいる事業を整理し、10年後の前橋が市民にとって、より一層【暮らしやすいまち】にするための指針としてまとめたものです。

策定後は、このビジョンに基づいて具体的なアクションプランを計画・実行・評価するPDCAサイクルを実施して、事業を進めてまいりました。しかし、時代の変化は著しく、SDGsやDX（デジタルトランスフォーメーション）といった策定時になかった概念が現れたり、前橋市においても「前橋ビジョン めぶく。」の発表を皮切りとして、GREEN & RELAX構想の提案のように、民間が中心となり行政や商工会議所と連携した新しいまちづくりの胎動がみられるようになり、さらには新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会経済環境が大きく様変わりしました。そこで今般、ビジョンの内容を見直すべく、まちづくり推進委員会にて議論を重ねてまいりました。

本ビジョンでは、将来像を【Well-beingな前橋 ～暮らしやすいまち】とし、まちづくりや産業振興などの取り組みを通じて、経済活動の最大化だけでなく、人々が心身ともに良好で、地域の豊かさや幸福度も実現できることを理念とし、「まちづくり」「産業振興」「人材育成」「環境・SDGs」と4つの大きな取り組みの枠組みを設定して、取り組むべき内容をまとめました。このビジョンのもと、2025年を目標年度として引き続き事業を進めることで、理想のまちの実現を目指したいと考えております。皆様とともに明日の前橋を考え、より暮らしやすいまちにするため、是非、本ビジョンをご一読いただければ幸いに存じます。

2022年6月
前橋商工会議所

会頭 曾我 孝之

目次

1. はじめに	1
2. ビジョンのあらまし	3
● ビジョンの目的	4
● 改訂の背景と策定後の動き	5
● 現状の整理	6
● 基本的考え方	7
● テーマ別 アクションプランの項目	8
● 具体的取り組み内容の概要	9
3. 取り組み内容	12
● デジタル田園都市国家構想の推進支援	13
● まちづくり：ローカルファーストなまちづくり	14
・ まちなかの魅力向上、公共交通網の充実、道路網の整備支援、観光振興、安心・安全なまちづくり	
● 人材育成：時代変化に対応したひとづくり	20
・ 人材育成・定着	
● 産業振興：イノベーションの創造	21
・ イノベーションの創出、デジタル化支援、産学官金共創、農商工連携・6次産業化支援	
● 環境・SDGs	25
・ SDGsの推進、カーボンニュートラルの推進、新エネルギー	
4. おわりに	28
5. 資料編	29



前橋商工会議所 まちづくりビジョン
2022-2025

Well-beingな前橋 ～暮らしやすいまち

ビジョンの
あらまし



ビジョンの目的

持続可能な
前橋地域の発展の
方向性を提示

少子高齢化と人口減少社会を迎える中、解決すべき地域課題への方策やめざす都市としての方向性を整理してあるべき姿を示す。

そして、商工会議所の取り組むべき役割、課題、方向性を示すもの。

前橋地域における課題

我が国を取り巻く社会・経済の状況

- 少子高齢化の進展と地域コミュニティの衰退
- 地球温暖化問題と代替エネルギーの必要性
- 経済のグローバル化、多様化の進展
- コロナ禍による社会・経済への影響
- 産業空洞化の進行と中小企業の後継者不足
- 政府・自治体財政の悪化

前橋におけるプラス要素とマイナス要素

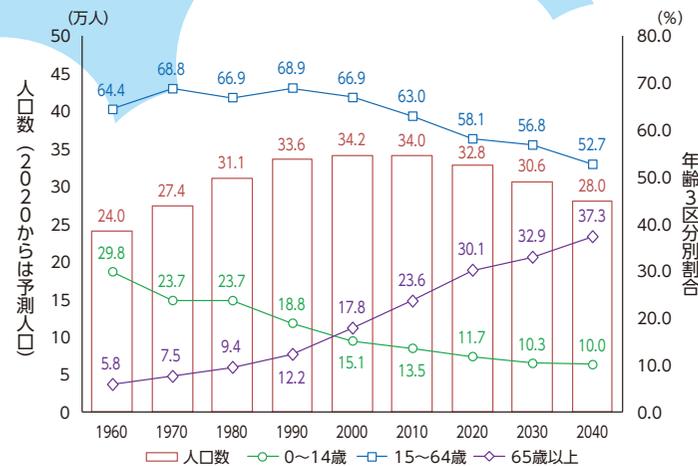
プラス要因

- 高速交通網の充実
- 大学・専門学校等高等教育機関の集積
- 充実した医療機関の存在
- 首都圏100kmと至近で低い災害リスク
- 温暖な気候と長い日照時間
- 豊かな緑と水、観光地
- 古墳や国分寺跡などの歴史遺産
- 萩原朔太郎をはじめとする文化・芸術

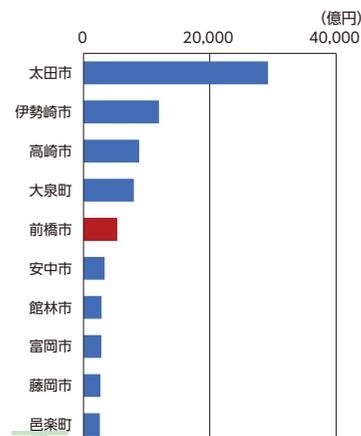
マイナス要因

- 中心市街地の顕著な衰退
- 大型小売店舗の郊外化と過当競争
- 小売店舗・年間販売額の減少
- 歩行者通行量の激減
- 認知度・魅力度・ブランド力の低迷
- 少子高齢化・人口減少の進展
- 2012年まで最高路線価6年連続最下位
- 高い空きオフィス率と相次ぐ企業撤退
- 企業撤退による雇用支持力低下・税収減

前橋市の人口の推移と予測



県内市町村別製造品出荷額等 (2018年)



県内市町村別農業産出額 (推計) (2019年)



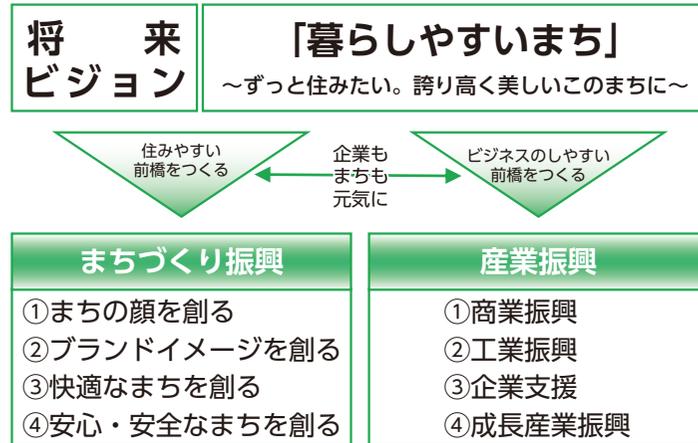


2013年策定 ビジョンの振り返り

2013年に策定したまちづくりビジョンは、10年後に目指す前橋の姿、実現に向けてどういった取り組みを進めるべきか、これまでの活動状況を整理しつつまとめたもの。

将来ビジョンとして「暮らしやすいまち」に据えて、まちづくり振興と産業振興の2本柱からなる。

2013年ビジョンの骨子



策定したビジョンに基づき、事業推進を図ってきたが、策定時になかった要素が現れたり、新型コロナウイルスのパンデミックによって社会経済環境が大きく様変わりしたことを踏まえ、内容を見直す必要が。

2013年ビジョン策定後の動き

2013

2013 前橋商工会議所 まちづくりビジョン策定

2014 前橋市中小企業振興基本条例制定

2014 広瀬川テラス構想

2015 45days

2016

2017 前橋ビジョン めぶく。策定
前橋市産業振興ビジョン策定

2018 めぶく。プラットフォーム前橋設立
全国商工会議所観光振興大会2017in前橋

2019 赤城自然塾DMO認定
前橋市アーバデザイン・GREEN & RELAX 策定

2020 (一社)前橋デザインコミッション(MDC)設立
コロナウイルスの感染拡大

2021 事業継続力強化支援連携協定締結
マエテク事業

2022

2022



2022年 現在の状況整理

現状、どんなことができたのか

まちづくり

- 再開発の推進（駅前、4・8番街、Qのひろばなど）
- 広瀬川、馬場川などの河畔整備・街路整備
- 五差路等の改良検討
- 上武道路 道の駅の設置
- 駒寄スマートICの大型化 …etc

公共交通網

- 鉄道網
JR両毛線の活性化等
- 路線バス
路線バス網の再編
路線バスの共同運行
自動運転バス実証実験…etc

人づくり

- 産学官金連携による
めぶく。プラットフォーム前橋の形成
- 人材育成・定着、働き方改革の推進…etc

産業振興・企業支援

- 商業、工業
- イノベーション振興
- ICT、DX 企業のデジタル化推進
- 環境対策
- 6次産業化…etc

社会状況の変化



施策等の方向性と前橋商工会議所
まちづくりビジョンの方向性

群馬県の大きな方向性

- (新・群馬県総合計画より)
- ・開疎化
 - ・始動人
 - ・官民共創コミュニティ
 - ・教育イノベーション…etc

前橋市の大きな方向性

- ・前橋ビジョン めぶく。
- ・新しい価値の創造（前橋市・総合計画）
- ・デジタル田園都市国家構想
（スマートシティ・スローシティ）
- ・前橋市アーバンデザイン

前橋商工会議所 まちづくりビジョン（2022年～2025年）

将来
ビジョン

Well-beingな前橋
～暮らしやすいまち

まちづくり

人材育成

産業振興

環境・SDGs

Well-being

Well-being（ウェルビーイング）は、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

前橋ビジョン めぶく。

GREEN&RELAX + 前橋市アーバンデザイン

MDC

民間の動き

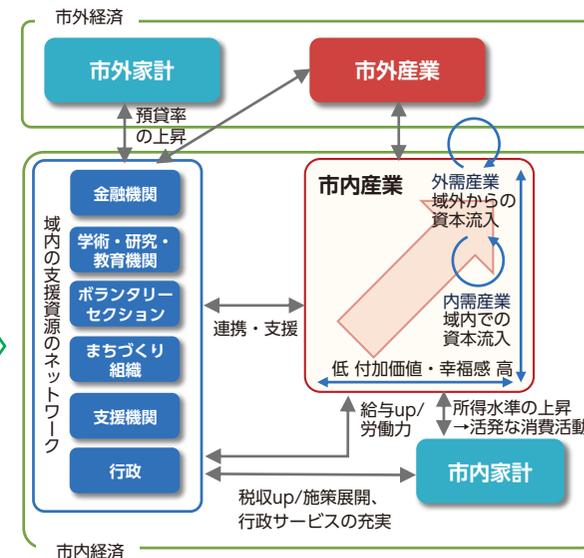
リノベーション
まちづくり

歴史まちづくり



稼ぐ地域の仕組みをつくりだす

経済活動による富の蓄積・循環が
生産性向上や市民の幸福感につながる
前橋ならではのエコシステム形成へ



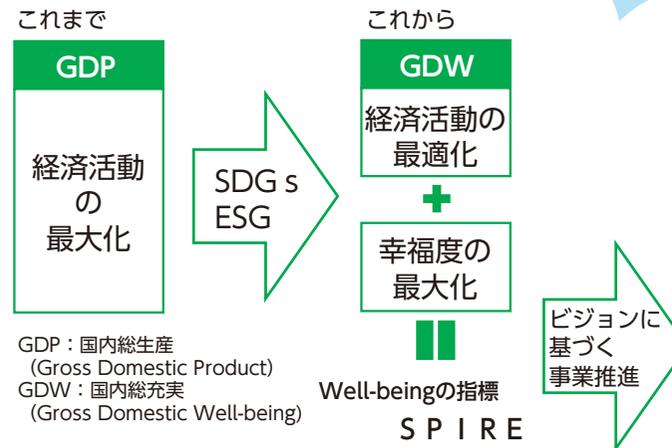
SDGs
持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)は、17の世界的目標、169の達成基準、232の指標からなる持続可能な開発のための、2030年までの国際的な開発目標。

ESG
環境 (E:Environment)、社会 (S:Social)、ガバナンス (G:Governance)の英語の頭文字を合わせた言葉で、企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だという考え方

SPIRE
ウェルビーイングのひとつの指標としての考え方で、SはSpiritual (精神)、PがPhysical (身体)、IがIntellectual (知性)、RがRelational (関係性)、EがEmotional (感情)の略語。この5つの要素が入り混じって全体的な自分の良い状態 (ウェルビーイング) を作っているという考え方。

基本的考え方

経済効率一辺倒から脱却した、心身ともに良好で、
地域の豊かさを重視する考え方へ



GDP：国内総生産 (Gross Domestic Product)
GDW：国内総充実 (Gross Domestic Well-being)

市内にある様々な要素がつながりやすく、
イノベーションが生まれやすい環境をつくる



目指す5年後の姿

前橋商工会議所 3つの基本方針

1. 県都にふさわしい街づくりの推進
2. 地域中小企業への積極的な経営支援
3. 安心・安全・快適な街づくり

将来
ビジョン

Well-beingな前橋
～暮らしやすいまち

ビジョンに基づき取り組むべきテーマ

- ・まちづくり： ローカルファーストなまちづくり
- ・人材育成： 時代変化に対応した人づくり
- ・産業振興： イノベーションの創造
- ・環境・SDGs： 持続可能な社会・経済へ

デジタル田園都市国家構想の推進





Well-being な前橋 ～暮らしやすいまち

環境・SDGs

持続可能な
社会・経済へ

SDGsの推進
新エネルギー
カーボンニュートラル

産業振興

イノベーション
の創造

イノベーションの創出
デジタル化・DXの実行
産学官金による共創
農商工連携・6次産業化

人材育成

時代変化に対応
したひとづくり

人材の育成・定着

まちづくり

ローカル
ファースト

まちなかの魅力向上
公共交通網の充実
道路網の整備支援
観光振興
安心・安全なまちづくり

デジタル田園都市
国家構想の推進支援

前橋商工会議所まちづくりビジョン
2022-2025



まちづくり
ローカルファーストなまちづくり



大項目						
中項目						
目標	前橋市の進めるスマートシティ×スローシティの取り組みを支援する	まちなかの魅力向上	公共交通網の充実	道路網の整備支援	観光振興	安心・安全なまちづくり
方向性	デジタル実装による地域の課題解決に向けた取り組みを支援する	中心市街地は市民・来訪者が楽しく時間を過ごせる場所 ～唯一無二のデザイン都市まえばしを目指す	誰にでも優しく利便性の高い公共交通網を目指す	安心、快適に移動できる道路網の形成を目指す	地域の「光」を再発見し、新たな観光振興にチャレンジ 赤城山観光を基軸としたスローシティの実現を目指す	安心安全に暮らせるまちづくりの推進
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 前橋市のスマートシティ×スローシティの取り組み推進におけるまちづくりや商工業振興へのメリット等の周知を図る まえばしID(仮称)の普及促進に関する取り組みを行う スマートシティ×スローシティの実現に向けた先端的サービスに対する取り組みの支援 クリエイティブな産業や人材の誘致につながる取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい景観の推進と情緒溢れる街並みの保存(前橋駅前けやき並木、広瀬川河畔、馬場川通り等) 多様な人が交流できるロータリー(サードプレイス)的な機能をつくる 文化や音楽、芸術・食を活かしてエンターテインメント性を付加し、常に人が集い交流し、商店街が稼げる仕掛けづくり 前橋の歴史・文化の市民への周知徹底(学校での指導) 前橋プラザ元気21や前橋文学館、アーツ前橋、前橋テルサ等の集客施設との効果的な連携 コンパクトシティの推進とまちなか居住の促進 4・8番街やQのひろば等の再開発の促進支援 	<ul style="list-style-type: none"> 前橋版MaaSの実装に向けた支援 まちなかのバスターミナル機能設置による結節性向上に向けた取り組み 前橋駅の乗降者数増加や利便性向上につながる駅前ターミナル機能充実や二次交通等の整備要望 路線バスやマイバス等の路線網や運行システムの構築支援 乗合バス事業者間の共同運行や運賃プール制等の推進 シェアサイクルの充実に向けた取り組み 両毛線の複線化・活性化のための継続した働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 上武道路・前橋渋川バイパス(国道17号)の早期全線4車線化の要望 国道50号・本町二丁目五差路、国道17号拡幅の早期改良の推進 国道50号・前橋笠懸道路の早期整備促進 国道17号・元総社町南交差点以北市道(西部環状線)の早期整備 利根川新橋の架橋に向けた要望・提案 自転車専用道路の整備に向けた要望・提案 	<ul style="list-style-type: none"> 赤城山観光(自然体験型観光)と都市型観光(まちなか歩き、歴史まちづくり)の充実のための観光資源の掘り起こしや磨き上げ 前橋観光コンベンション協会が取り組む「前橋くらし旅博覧会」を支援し、体験型観光を強化し、前橋の魅力をもっと多くの人々にPRする 赤城山山頂などの自然保護への関心を高めるグリーンツーリズムの構築 教育と医療に特化したコンベンションやスポーツコンベンションの誘致強化 商店、交通、宿泊関係団体等が一体となった体制づくりとホスピタリティの醸成 観光関連事業者の危機管理BCPの策定支援 	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災の取り組みやリスクマネジメントの推進支援(BCP策定支援等) 地域包括ケアシステムの更なる充実に向けた取り組み マイナンバーカードの普及促進 マイナンバーカードを活用したPHRや医療連携の推進 安否確認・見守り体制の強化 中心市街地や学校周辺等への防犯カメラの設置・増設に向けた要望 前橋版CCRC構想の推進支援 首都圏のバックアップ機能の誘致に向けた取り組み



人材育成
時代変化に
対応したひと
づくり



産業振興
イノベーションの創造

大項目					
中項目	人材育成・定着	イノベーションの創出	デジタル化支援	産学官金共創	農商工連携・6次産業化支援
目標	未来を切り開く新しい時代に対応できる人材育成を目指す	「未来志向」経営へ；新しい価値をイノベーションで創出	生産性の向上を；デジタル化・DXの実行	「地域力向上」「イノベーションの加速」産学官金による共創	地方創生推進の鍵；農商工連携・6次産業化の実現
方向性	産学官金共創によるプラットフォームを活用した人材育成・定着の取り組みを進める	「守り」と決別し、挑戦や試行錯誤、創造的破壊を促すイノベーションを加速する	業務効率化だけでなく、新たな価値の創出や競争上の優位性をデジタル化・DXで実行する	産学官金の連携強化、官民共創コミュニティの実現を図る	生産・加工・販売の一体化を図り前橋オリジナルサイクルの実現（ブランド化）
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「めぶく。プラットフォーム前橋」の推進 ・商工会議所検定の活用とキャリア教育の体系化 ・大学・専門学校等高等教育機関と産業界との定期的な情報交換の実施 ・地元企業と教育機関との連携による合同企業説明会の実施 ・企業が成長するためのキャリア教育やリカレント教育の実践 ・デジタル化・DX推進のためのデジタル人材育成の推進 ・会員企業による中長期インターンシップの実施 ・ダイバーシティ（多様な働き方）の推進等の支援 ・創業・起業支援、事業承継支援 ・日本商工会議所等と連携したSTEAM教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション創出に向けた意識の醸成、連携強化 ⇒ 産学官金共創 ぐんま未来イノベーション会議の開催 ・新たな取り組み計画の策定支援 ⇒ 経営革新計画、事業再構築補助金等の計画策定支援 ・オープンイノベーションのマッチング支援 ⇒ 産学官金連携による知財・研究等への橋渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上のための身の丈に合ったデジタル化支援 ・働き方改革（テレワーク）、社員定着率向上のためのデジタル化支援 ・新たな価値の創出のためのデジタル化支援 ・デジタル人材の育成 ・サイバーセキュリティ対策支援 ・キャッシュレス化の推進 ・AI/IoT、RPA等の導入支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官金共創 ぐんま未来イノベーション会議の開催 ・産学官金の連携強化 ・産学官金共創コミュニティの醸成支援 ・オープンイノベーションのマッチング支援 ⇒ 産学官金連携による知財・研究等への橋渡し ・地域人材の育成と教育改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化への取り組み支援（補助金、計画策定支援等） ・農協、森林組合等の連携強化 ・農商工連携のマッチング機会の創出 ・前橋ブランドの創出（まえばし野菜や果物等） ・赤城の恵ブランドの支援と利活用 ・道の駅との連携強化 ・市内飲食店や宿泊、観光事業者との連携強化



環境・SDGs
持続可能な社会・経済へ

大項目	環境・SDGs 持続可能な社会・経済へ		
中項目	SDGsの推進	カーボンニュートラルの推進	新エネルギー
目標	SDGsの推進を通して地域の持続的な発展につなげる	地球温暖化対策と経済成長の両立	地域で再生エネルギーを供給できる仕組みづくり
方向性	SDGsの理念の導入により持続可能な地域とビジネスの変革を支援する	「地球温暖化対策と経済成長」を目指し、化石燃料に依存しない持続可能な社会の構築を進める	新しい再生エネルギーの導入に向けた支援を行う
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsへの取り組みを支援（チェックリスト等）し、地域との連携、新しい取引先の獲得など、今までになかったイノベーションやパートナーシップを推進する ・会員企業の取り組み事例の共有化（情報発信・共有） ・教育の一環として学生や家庭でのSDGsへの関心を高めるための取り組み支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止等、環境問題に関する啓発・普及の取り組み推進 ・「ぐんま5つのゼロ宣言」の普及促進 ・「ごみの減量化」に向けた取り組みを進める ・未来の自動車（CASE）の新しい技術（電気自動車・自動運転等）の導入に向けた取り組み推進 ・移動時の公共交通や自転車等の有効活用 ・環境教育の推進～eco検定（環境社会検定試験）の導入 ・まちなかの緑化（GREEN & RELAX構想）の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・節電・省エネ対策等への取り組み強化 ・雨水等を活用した緑化推進によりヒートアイランド等への対応 ・地域発電・供給システム構築の調査研究 ・地域独自の最適なベストミックスの検討 ・新エネルギー関連研究機関や実験所、新エネルギー発電施設等の誘致 ・日本商工会議所 環境アクションプランの周知

2022

2025



前橋商工会議所 まちづくりビジョン
2022-2025

Well-beingな前橋 ～暮らしやすいまち

取り組み内容





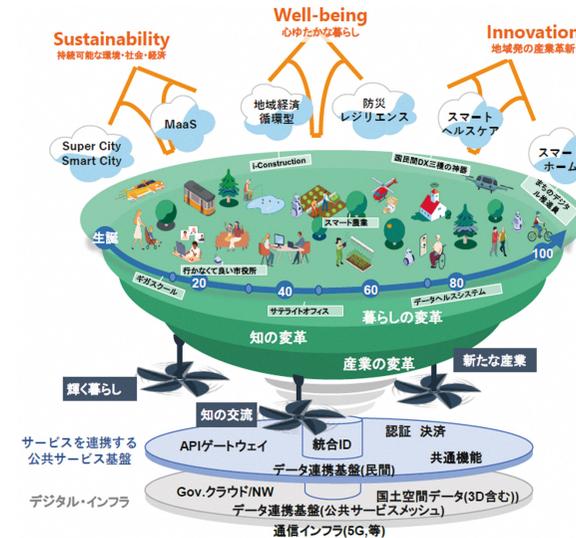
前橋市の進めるスマートシティ×スローシティの取り組みを支援する

目標 デジタル実装による地域の課題解決に向けた取り組みを支援する

「デジタル田園都市国家構想」はデジタルの力で、「暮らし」「産業」「社会」を変革し、地域を全国や世界と有機的につなげていく取り組みであり、前橋市においても活用を想定している。これまで前橋市ではスマートシティ×スローシティの取り組みについて検討が進められており、まえばしID（仮称）を創設し、教育や交通、先端医療など先端的なサービスが提供される予定であり、デジタルの力で「誰一人取り残さない」ための「先端的」で「パーソナライズ」されたまちづくりが進められようとしている。このように、前橋市のこの構想ではデジタル実装による地域の課題解決に向けた取り組みが数多く検討されており、産業界としてもその取り組みについて支援を図る必要がある。

具体的な取り組み

- ・前橋市のスマートシティ×スローシティの取り組み推進におけるまちづくりや商工業振興へのメリット等の周知を図る
- ・まえばしID（仮称）の普及促進に関する取り組みを行う
- ・スマートシティ×スローシティの実現に向けた先端的サービスに対する取り組みの支援
- ・クリエイティブな産業や人材の誘致につながる取り組みを行う



まちなかの魅力向上

目標 中心市街地は市民・来訪者が楽しく時間を過ごせる場所

～唯一無二のデザイン都市まえばしを目指す～

これまでのまちなかの活性化について、前橋ビジョン「めぶく。」に始まり、GREEN & RELAX 構想や前橋市アーバンデザインの策定、(一社)前橋デザインコミッションの設立をきっかけとした、民間による新しい動きによって活性化の兆しが見え始めており、継続的な取り組みが求められる。各種再開発事業が進むなかで、地域資源を活かしたコンテンツの充実やまちなか全体の回遊を促して通行量を増やし、にぎわいを取り戻すことで稼げる商店街の仕組みを作り、富の循環を図る。さらには、居住人口を増やし、路線価を上昇させるためにも、引き続き居住する場所、働く場所を増やすための施策も重要であるとする。

具体的な取り組み

- ・美しい景観の推進と情緒溢れる街並みの保存（前橋駅前けやき並木、広瀬川河畔、馬場川通り等）
- ・多様な人が交流できるロータリー（サードプレイス）的な機能をつくる
- ・文化や音楽、芸術・食を活かしてエンターテインメント性を付加し、常に人が集い交流し、商店街が稼げる仕掛けづくり
- ・前橋の歴史・文化の市民への周知徹底（学校での指導）
- ・前橋プラザ元気21や前橋文学館、アーツ前橋、前橋テルサ等の集客施設との効果的な連携
- ・コンパクトシティの推進とまちなか居住の促進
- ・4・8番街やQのひろば等の再開発の促進支援





公共交通網の充実

目標 誰にでも優しく利便性の高い公共交通網を目指す

公共交通が脆弱な前橋において、公共交通網は既存路線網や運行システムの改善など、利便性の向上を勘案しながら利用者の増加を図る必要がある。また、コンパクトな都市形成のためには、バス、鉄道相互のネットワークを充実し、まちなかと拠点地域を結ぶ交通網の形成が求められる。そしてMaaSをはじめ、他のサービスと連携を図ったり、鉄道、路線バス、シェアサイクル等の様々なモードを活かした人々が快適に移動できる公共交通網の形成が必要である。



具体的な取り組み

- ・前橋版MaaSの実装に向けた支援
- ・まちなかのバスターミナル機能設置による結節性向上に向けた取り組み
- ・前橋駅の乗降者数増加や利便性向上につながる駅前ターミナル機能充実や二次交通等の整備要望
- ・路線バスやマイバス等の路線網や運行システムの構築支援
- ・乗合バス事業者間の共同運行や運賃プール制等の推進
- ・シェアサイクルの充実に向けた取り組み
- ・両毛線の複線化・活性化のための継続した働きかけ





道路網の整備支援

目標 安心、快適に移動できる道路網の形成を目指す

関越自動車道、上信越自動車道、北関東自動車道が走る群馬県央エリアは、高速交通の十字軸が形成され、前橋市には地域高規格道路である上武道路が全線開通し、現在、全線4車線化の整備が進んでいる。こうした利点を活かして企業誘致や観光誘客が積極的に図られ、また物流などスムーズな経済活動につながるようにすることが求められる。そのためには、幹線道路でボトルネックとなっている区間の解消や、進出した企業や観光客が安心・安全、快適に移動できるように幹線道路を補完する市内の道路網の整備も同時に進める必要がある。また、市街地における自転車専用道路の整備も推進する。



具体的な取り組み

- ・上武道路・前橋渋川バイパス（国道17号）の早期全線4車線化の要望
- ・国道50号・本町二丁目五差路、国道17号拡幅の早期改良の推進
- ・国道50号・前橋笠懸道路の早期整備促進
- ・国道17号・元総社町南交差点以北市道（西部環状線）の早期整備
- ・利根川新橋の架橋に向けた要望・提案
- ・自転車専用道路の整備に向けた要望・提案





観光振興

目標 地域の「光」を再発見し、新たな観光振興にチャレンジ ～赤城山観光を基軸としたスローシティの実現を目指す

コロナ禍により、観光関連産業は大変厳しい状況にあり、その立て直しを図ることが急務である。これまで、赤城山の自然や製糸産業で発展してきた歴史や文化、さらには「T-1グランプリ」や「赤城の恵ブランド」による農畜産物などを観光資源としてPRし、首都圏を中心に観光客など人の交流を積極的に展開する必要がある。上武道路沿いに完成予定の新しい道の駅「まえばし赤城」を足掛かりに、赤城山観光と敷島公園、まちなかと連携した観光振興を、前橋市が掲げるスローシティのコンセプトを踏まえながら、旅行ニーズの多様化やデジタル化、さらにはSDGsに対応した観光産業の再構築、インバウンドの回復に備えた取り組みを行うことが求められる。

具体的な取り組み

- ・赤城山観光（自然体験型観光）と都市型観光（まちなか歩き、歴史まちづくり）の充実のための観光資源の掘り起こしや磨き上げ
- ・前橋観光コンベンション協会が取り組む「前橋くらし旅博覧会」を支援し、体験型観光を強化し、前橋の魅力を多くの人々にPRする
- ・赤城山山頂などの自然保護への関心を高めるグリーンツーリズムの構築
- ・教育と医療に特化したコンベンションやスポーツコンベンションの誘致強化
- ・商店、交通、宿泊関係団体等が一体となった体制づくりとホスピタリティの醸成
- ・観光関連事業者の危機管理BCPの策定支援





観光振興

「全国商工会議所観光振興大会2017 in前橋」で
採択された前橋アピール（一部抜粋）

前橋アピール 「観光イノベーション」で、地域に新しい風を吹かせよう!!

われわれは、ここ前橋において、「見つけよう観光 磨こう観光～地域から新しい風を吹かせ～」をテーマに掲げ、「全国商工会議所観光振興大会2017 in前橋」を開催した。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、時を越え、人々の熱い思いで再び新しい輝きを放った。その勢いは、地域に夢と希望をあたえ、広域での連携は加速度的に高まってきている。

伝統・文化や産業・技術は、それを伝承してきた人々の不断の努力と、地域の支えがあってこそその宝であり、磨けば光る観光資源の原石である。今大会では、そこに視点をあて、日本の産業近代化を牽引した器械製糸の生地・前橋で、歴史・文化・芸術・自然はもちろんのこと、産業や医療など地域が持つ宝を観光の視点で吸い上げ、磨き上げることにより、新しい「めぶき」が生まれること、そして、観光が地域経済活性化の原動力となることを確信した。

今こそ、チャンス。商工会議所のネットワークと活力で、「観光イノベーション」を巻き起こし、地方創生を促進し、地域に輝きを持たせるために、下記の事項をアピールする。

- <1> 産業観光などの今までにない視点で、地域資源を見つめ直す努力をするとともに、ヘルスツーリズムなど、手法を変えて観光資源を磨き上げ、新しい発想で魅力ある観光商品の開発に積極的に取り組む。
- <2> ICT等の活用や従来型商慣習を見直すとともに、古いものを再利用するリノベーションなどにも目を向け、経営の近代化・効率化を推進し、観光を支える人材の育成・確保を積極的に行い、観光客目線に立ち、親しみやすい観光産業の発展につなげていく。
- <3> 災害時の旅行者の安全確保や2次交通の整備などの観光基盤整備を推進し、観光客を安心・安全・快適に迎え入れるために、必要なヒト・モノ・コト、そしておもてなしやネットワークなど新しい観光のカタチの構築に努める。





安心・安全なまちづくり

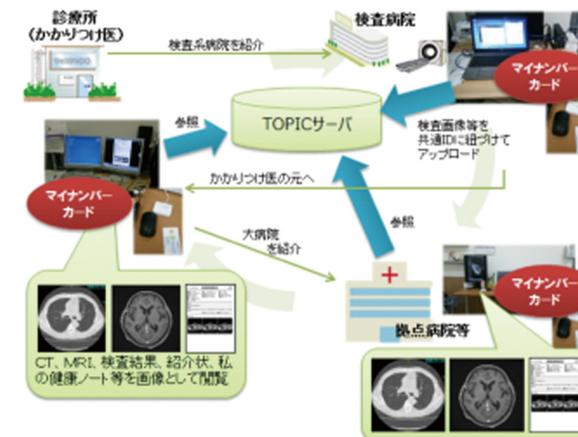
目標 安心・安全に暮らせるまちづくりの推進

前橋は、医師の数や中核病院に恵まれ、重粒子線医学センターという最先端医療施設を有する恵まれた環境にある。こうした医療の充実をはじめとして、人と人が支え合う地域のコミュニティの再生や事故や事件を未然に防ぐための仕組み、さらに事故や災害に遭遇した場合の素早い対応ができるための危機管理体制の整備、さらにはICTを活用することで様々な情報を一元化・発信するシステム、市民サービスを受用できるシステムを構築することで、市民が健康で安心・安全に暮らせるまちとすることが必要である。



具体的な取り組み

- ・ 防災・減災の取り組みやリスクマネジメントの推進支援 (BCP策定支援等)
- ・ 地域包括ケアシステムの更なる充実に向けた取り組み
- ・ マイナンバーカードの普及促進
- ・ マイナンバーカードを活用したPHRや医療連携の推進
- ・ 安否確認・見守り体制の強化
- ・ 中心市街地や学校周辺等への防犯カメラの設置・増設に向けた要望
- ・ 前橋版CCRC構想の推進支援
- ・ 首都圏のバックアップ機能の誘致に向けた取り組み





人材育成・定着

目標 産学官金共創で人材育成・定着を図る

地域の中小企業にとって、人材の育成・定着は経営の存続とともに最大の経営課題であり、産業界、教育界、行政が共通して抱える喫緊の課題である。そのためには、中小企業に対する地域の理解を深める機会の設定や多様な知識や情報を得るためのSTEAM教育、インターンシップの拡充、社会人の学び直しの機会（リカレント教育）の創出や交流を後押しすることが必要である。そこで、「めぶく。プラットフォーム前橋」をはじめ大学や専門学校などの高等教育機関との連携による取り組みを進める。また、次世代を担うビジネスマネジメント（経営者・中核人材等）の育成とともにリカレント教育を通して、事業承継等を強力にバックアップする。



具体的な取り組み

- ・「めぶく。プラットフォーム前橋」の推進
- ・商工会議所検定の活用とキャリア教育の体系化
- ・大学・専門学校等高等教育機関と産業界との定期的な情報交換の実施
- ・地元企業と教育機関との連携による合同企業説明会の実施
- ・企業が成長するためのキャリア教育やリカレント教育の実践
- ・デジタル化・DX推進のためのデジタル人材育成の推進
- ・会員企業による中長期インターンシップの実施
- ・ダイバーシティ（多様な働き方）の推進等の支援
- ・創業・起業支援、事業承継支援
- ・日本商工会議所等と連携したSTEAM教育の推進





イノベーションの創出

目標 「未来志向」経営へ；新しい価値をイノベーションで創出

「イノベーション」は長きに渡り「技術革新」と訳されてきたが、イノベーションの提唱者であるシュンペーターによれば、イノベーションとは、物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」を創造することにより、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことである。

経営資源の制約や既存事業への対応など、様々な事情を抱える中で、中小企業がイノベーションを創出するためには、経営者によるイノベーションの重要性の認識と「未来志向」の考え方が重要である。自社の業界ポジションや未来の社会構造、市場環境を見据え、トライアンドエラーを繰り返しながら、既存技術・ノウハウを活かした新商品・新サービスの開発、新しいビジネスモデルへの転換といったイノベーション活動に取り組む必要がある。

失敗回避、計画順守、前例踏襲を優先する「守り」と決別し、挑戦や試行錯誤、創造的破壊を促すカルチャーへと経営者自らが判断し方向性を示すことでイノベーションを加速する支援を行う。

具体的な取り組み

- ・イノベーション創出に向けた意識の醸成、連携強化
 - ⇒ 産学官金共創 ぐんま未来イノベーション会議の開催
- ・新たな取り組み計画の策定支援
 - ⇒ 経営革新計画、事業再構築補助金等の計画策定支援
- ・オープンイノベーションのマッチング支援
 - ⇒ 産学官金連携による知財・研究等への橋渡し





デジタル化支援

目標 生産性向上を；デジタル化・DXの実行

人口減少・少子高齢化が深刻さを増す我が国において、限られた人的資源でより多くの付加価値を生み出すには、一人当たりGDPを高めることが重要である。特に、生産年齢人口の減少も見込まれている以上、現状の一人当たりGDPを維持したとしても経済成長は達成できず、我が国が持続的に成長を図るためには生産性向上は避けて通れない課題である。新型コロナウイルス感染症の拡大以前から、光ファイバーや移動通信システム等のデジタル基盤の整備が進むとともに、AIやIoTといったデジタル技術も浸透してきたが、企業活動におけるICT投資は、業務効率化のための投資へと向かいやすく、新たな価値の創出による生産性向上へと向かうことは少なかった。

今後、コロナ禍を契機として、世界規模でのデジタル化が加速する中、激しく変化する事業環境において中小企業が生き残っていくには、デジタル化の進展により変化する社会・経済に合わせて、自身の組織やビジネスモデルを変革し、デジタルを業務効率化のためだけのツールとして実装するのではなく新たな価値の創出に活用することによって競争力を高めて優位性を確立させる「デジタル・トランスフォーメーション」の実行が、これまで以上に求められている。

具体的な取り組み

- ・生産性向上のための身の丈に合ったデジタル化支援
- ・働き方改革（テレワーク）、社員定着率向上のためのデジタル化支援
- ・新たな価値の創出のためのデジタル化支援
- ・デジタル人材の育成
- ・サイバーセキュリティ対策支援
- ・キャッシュレス化の推進
- ・AI/IoT、RPA等の導入支援





産学官金共創

目標 「地域力向上」「イノベーションの加速」 産学官金による共創

群馬県が策定した「新・群馬県総合計画」の中での「官民共創コミュニティの育成」の項目は、20年後の姿として2040年の群馬県は、さまざまな分野で産学官民が連携し、群馬の土壌を生かした個性あふれるたくさんの「官民共創コミュニティ」が立ち上がり、地域で重層的に重なり合って、地域の魅力を創り出す。この魅力が求心力となり、新たな「始動人」を惹きつけ、「官民共創コミュニティ」で活躍することで、官民共創コミュニティが自然に立ち上がり、活動し、課題解決に結びつく循環が生まれている。とビジョンを定めた。

前橋商工会議所においても令和4年6月に開催する「産学官金共創 ぐんま未来イノベーション会議」を契機に、群馬県内の産・学・官・金の連携強化、並びに官民共創コミュニティの実現を図り、地域力の向上、イノベーションの加速によって地域社会・地域経済の活性化に努める。

具体的な取り組み

- ・産学官金共創 ぐんま未来イノベーション会議の開催
- ・産学官金の連携強化
- ・産学官金共創コミュニティの醸成支援
- ・オープンイノベーションのマッチング支援
⇒ 産学官金連携による知財・研究等への橋渡し
- ・地域人材の育成と教育改革





農商工連携・6次産業化支援

目標 地方創生推進の鍵；農商工連携・6次産業化の実現

前橋は、優良な農畜産物産出都市であり、豚肉を活用した「TONTONのましまえばし」や「赤城の恵」などにより認知度は徐々に高まっているものの、単発的な商品開発に終始してしまい、地域への経済的・社会的普及効果が見られないという課題がある。

農商工連携の取り組みが地域経済の持続性に繋がるためには、地域が一丸となり、地域全体の活性化につながるような取り組みとなることが求められている。そのためにも農林水産業や商工業の分野を横断し、より多くの関係者が連携することで、地域経済への貢献や波及効果が期待されるとともに、持続的な取り組みに繋げていくことが必要である。こうしたなか、生産物に付加価値を付けて販路を拡大したい一次産業と、下請けが主で自社オリジナルの技術や製品をPRし、販路を拡大したい二次・三次産業を融合して、地域経済の活性化並びに地方創生に繋げることが肝要である。

そのためには、商工会議所が企業と農林水産業者を結びつけ、国（農林水産省・経済産業省）や県産業支援機構の補助事業を積極的に活用し、生産、加工、販売の一体化を図り前橋オリジナルのサイクルを構築したい。

具体的な取り組み

- ・ 6次産業化への取り組み支援（補助金、計画策定支援等）
- ・ 農協、森林組合等との連携強化
- ・ 農商工連携のマッチング機会の創出
- ・ 前橋ブランドの創出（まえばし野菜や果物等）
- ・ 赤城の恵ブランドの支援と利活用
- ・ 道の駅との連携強化
- ・ 市内飲食店や宿泊、観光事業者との連携強化





SDGsの推進

目標 SDGsの推進を通して地域の持続的な発展につなげる

2015年に「国連持続可能な開発サミット」において、2030年に向けた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）」が掲げられた。SDGsは、誰一人取り残さない社会を実現するために経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むことを求める「17の国際目標」である。

これからの社会・経済活動を行う上では、一人ひとりが「17の国際目標」を理解し行動に移せる“人づくり”が重要であり、ビジネスにおいてもSDGsの理念を意識した経営活動が様々なシーンで求められている。

かつて、商工会議所を創設した渋沢栄一翁は「私益と公益の両立」を唱えた。この考えを忘れず、豊かさを実感できる社会の実現に向け、地域の持続的な発展に向け全力で諸活動に取り組む。

具体的な取り組み

- ・SDGsへの取り組みを支援（チェックリスト等）し、地域との連携、新しい取引先の獲得など、今までになかったイノベーションやパートナーシップを推進する
- ・会員企業の取り組み事例の共有化（情報発信・共有）
- ・教育の一環として学生や家庭でのSDGsへの関心を高めるための取り組み支援





カーボンニュートラルの推進

目標 地球温暖化対策と経済成長の両立

地球温暖化が地球規模で進んでいる現在、国内でも異常気象を起因とする気温上昇により、自然環境の変化や豪雨・土砂災害の多発などその影響がより顕在化している。前橋市の調査では、この100年間で本市の平均気温は2度上昇しているとされ、災害リスクの高まりが懸念される。カーボンニュートラルの推進に関しては、「持続可能な開発目標（SDGs）」と「パリ協定」と続き、COP26が締結され、環境問題に対し、国際的な共通課題として数値目標を設定した上で、強い決意のもと取り組むこととされている。これを受け、日本政府は2020年10月、「2050年カーボンニュートラル」を宣言、2021年4月には、2030年の温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減を目指すこととした。また、群馬県では2050年に向け『ぐんま5つのゼロ』を宣言し、本市でも2021年3月時点での削減目標として、32.4%削減を掲げている。地域の総合経済団体として、それらの削減目標の達成に向け「地球温暖化対策と経済成長」の両立を前提に、化石燃料に依存しない社会を作るための様々な難題を乗り越えるとともに、商工会議所の総力を挙げて活動することで社会貢献を果たす必要がある。

具体的な取り組み

- ・地球温暖化防止等、環境問題に関する啓発・普及の取り組み推進
- ・「ぐんま5つのゼロ宣言」の普及促進
- ・「ごみの減量化」に向けた取り組みを進める
- ・未来の自動車（CASE）の新しい技術（電気自動車・自動運転等）の導入に向けた取り組み推進
- ・移動時の公共交通や自転車等の有効活用
- ・環境教育の推進～eco検定（環境社会検定試験）の導入
- ・まちなかの緑化（GREEN&RELAX構想）の推進





新エネルギー

目標 地域で再生エネルギーを供給できる仕組みづくり

今やエネルギーは人の営みに欠かせないものである。しかしこれまでは化石燃料の依存度が高く、その結果CO₂の排出量が増大し、地球温暖化や生態系など環境に悪影響を及ぼすとともに、枯渇が懸念されている。さらに東日本大震災による原子力発電の危険さを目の当たりにしたことで、クリーンなエネルギーを安定して発電・供給する体制が求められている。

COP26に基づく世界的な地球温暖化対策や近年、多発する大規模災害による影響といったエネルギー供給をめぐる環境が大きく変化するなか、火力や水力、原子力の従来からのエネルギー供給体制だけでなく、地域に存在するエネルギー資源（ソーラーパネル、小水力発電、再エネ、コジェネ、蓄電池等）を域内で安定して供給できる分散型エネルギー供給体制の構築が必要とされている。

地域のエネルギー供給体制については、まちづくりと一体的に進めることで、地域経済の活性化や脱炭素化（カーボンニュートラル）の推進、災害時の冗長性の強化といった、環境面だけでなく経済面や社会面での効果に加え、地域イメージの向上にも寄与する可能性がある。様々な地域課題解決に向けてエネルギーの活用を目指す取り組みを支援する。

具体的な取り組み

- ・節電・省エネ対策等への取り組み強化
- ・雨水等を活用した緑化推進によりヒートアイランド等への対応
- ・地域発電・供給システム構築の調査研究
- ・地域独自の最適なベストミックスの検討
- ・新エネルギー関連研究機関や実験所、新エネルギー発電施設等の誘致
- ・日本商工会議所 環境アクションプランの周知





おわりに ビジョンの実現に向けて

この度、前橋商工会議所 まちづくりビジョンの改訂版をまとめさせていただきました。2013年に策定したビジョンは、10年後の持続可能な前橋地域の姿を提示し、商工会議所が取り組むべきことについて、当時の総合政策委員会（委員長・故 高浦 孝好）のもとで、議論を重ねて作成されたものです。

本編でも触れている通り、ビジョン策定から時間が経過し、当時では想像できない事象が発生し、社会経済環境が変化したことを背景に行政と民間が連携して新たな動きがみられています。そこで今般、内容を見直すべく、まちづくり関係の委員会の正副委員長で構成されるまちづくり推進委員会で議論を重ね、勉強会を行いながら改訂作業を行ってまいりました。改訂に向けた議論を通して、将来像を【Well-beingな前橋 ～暮らしやすいまち】と改め、経済的な利益ばかりを追求するだけでなく、幸福感や充実感を感じられる地域を創ることを念頭に取りまとめを行いました。

「10年ひと昔」と良く言われますが、現代は短い時間で多くの変化があり、先々を予測するのは大変難しい時代となってしまいました。そのようななかでも、本質的には前橋が持つ特徴や強みなどの良いところは不変の財産だと思えます。赤城山や利根川など水と緑の自然環境に恵まれた前橋は、落ち着いた雰囲気を持ち、穏やかな空気が漂う品格ある里まちであります。そして、誰でも暖かく迎え入れ、人情味溢れる気質、文化・芸術に対する造詣の深さなど独特の風情を持ち合わせています。さらに自然災害が少なく日照時間も長く、医療・教育が充実し、物価が安いなど、「暮らしやすさ」が溢れているのが前橋の最もアピールできるポイントではないでしょうか。

そのアピールポイントを活かして、ローカルファーストな視点でまちづくりや産業振興を行うことで、前橋が活気を取り戻し、人の集まる、魅力あるまちをつくり、また人々が心身ともに良好で、精神的な豊かさが感じられる暮らしやすい前橋を創造することが必要であると考えます。その歩みを進めるための指針としてビジョンを位置づけ、日々の取り組みを進めてまいりたいと思えます。今日より明日がきっと良くなると信じ、『前へ前へ』と共に歩いていきましょう。

なお、結びとなりますが本ビジョンの改訂に際し、勉強会の講師を務めていただきました前橋市副市長の大野 誠司様をはじめ、前橋市参事兼スマートシティ推進監の谷内田 修様、JTQ株式会社・代表の谷川 じゅんじ様など、関係機関や関係者の皆さまよりご指導ご協力いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

2022年6月
前橋商工会議所 副会頭
まちづくり推進委員会 委員長
小林 要一



前橋商工会議所
まちづくりビジョン
2022-2025

資料編

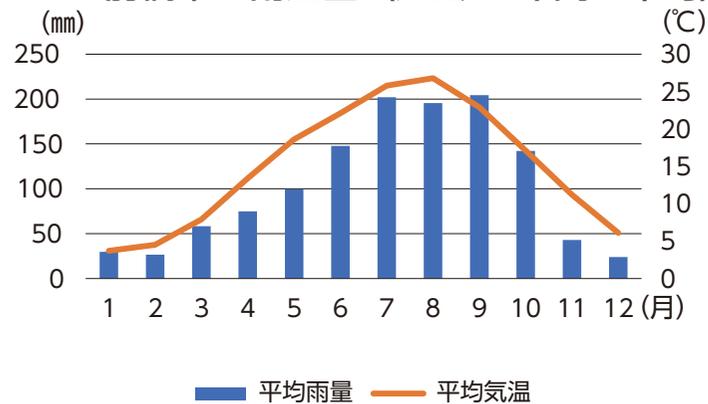


気候

日照時間の長さが全国トップクラス

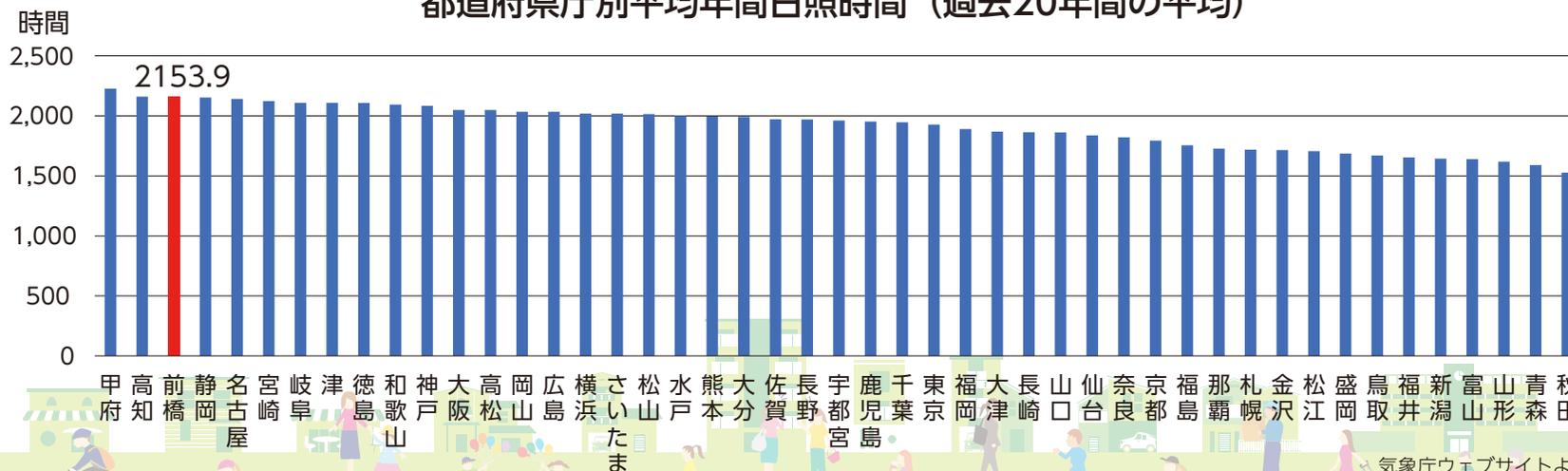
年間平均気温（平年値）は15.0℃、年間降水量（平年値）は1,247.4mmである。月別では、最も寒いのが1月の3.7℃で、最も暖かいのが8月の26.8℃である。降水量は7～9月にかけて多く、9月が最大。内陸性気候のため、晩秋から冬季（11月～2月）にかけて月間50mmを下回り、冬季の間は晴天が続くことがわかる。それを裏付けるように年間日照時間は2,153.7時間で都道府県庁所在地のなかでは甲府、高知についで3番目である。

前橋市の雨温図（過去20年間の平均）



気象庁ウェブサイトより

都道府県庁別平均年間日照時間（過去20年間の平均）



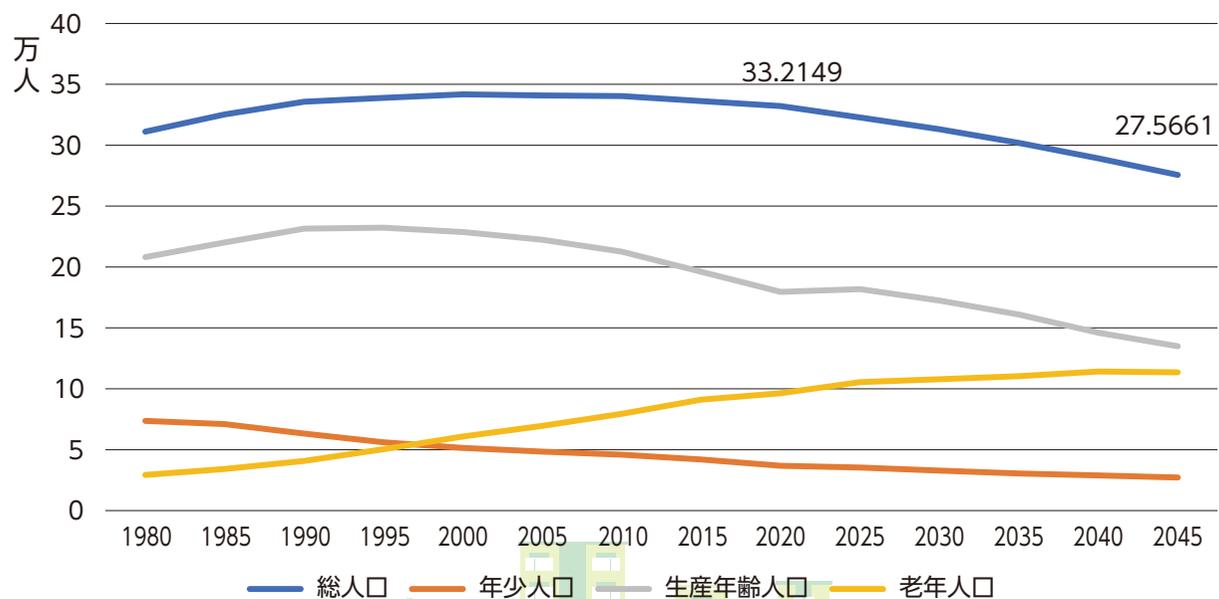
気象庁ウェブサイトより

人口推移

将来人口予測では断続的な人口減少と高齢化率の上昇が続く

2020年時点での前橋市の人口は約33.2万人で10年前と比べて約8千人が減少した。将来人口予測では、2045年の前橋市は約27.6万人と約5.6万人減少すると予測されている。また高齢化率については、29.0%（2020年）から41.1%（2045年）に上昇し、約11.3万人が65歳以上の高齢者になると予測されている。さらに、現状では中心市街地付近での高齢化率が高く、人口減少が進んでいる。

前橋市の人口推移（2025年以降は予測人口）



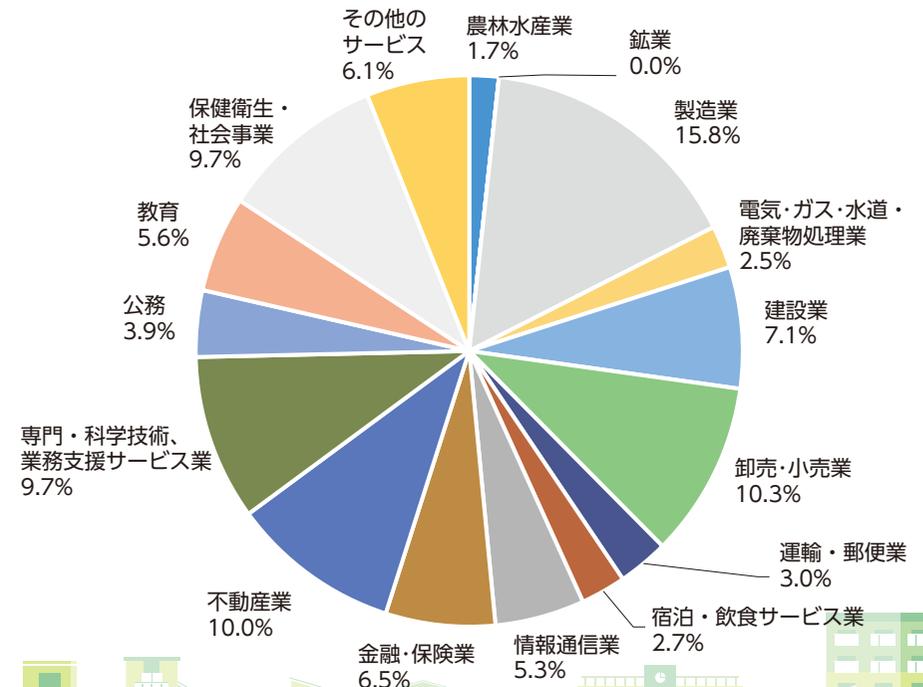
【国勢調査】、日本の地域別将来推計人口】より作成

市内総生産額

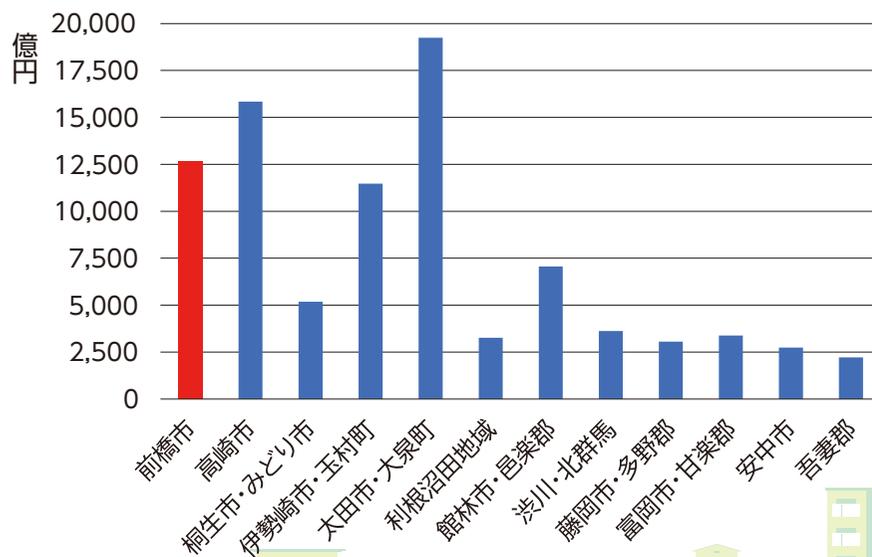
バランスの取れた産業構造

前橋市の総生産額は約1兆2千億円で、県内では太田市・大泉地域、高崎市に次ぐ規模であり、県内でも有数の規模である。内訳は、製造業が最も多く1,991億円でシェアは15.7%、続いて卸売・小売業が1,297億円でシェアは10.3%、不動産業が製造業は1,256億円でシェアは10.0%である。他都市と比べると情報通信業や保険・金融業、専門・科学技術、業務支援サービス業のシェアが高い状態にある。

前橋市における産業別総生産割合（2017年）



各都市圏における総生産額（2017年）



「市町村民経済計算結果」より作成

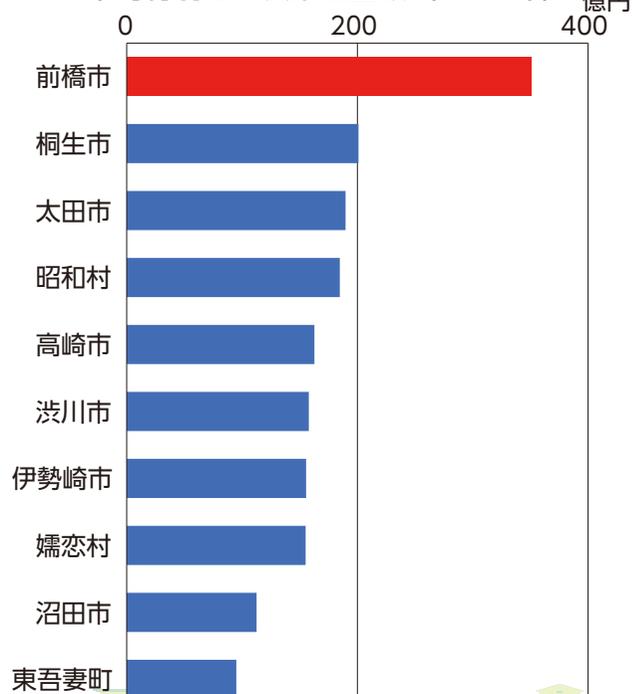
「市町村民経済計算結果」より作成

農業

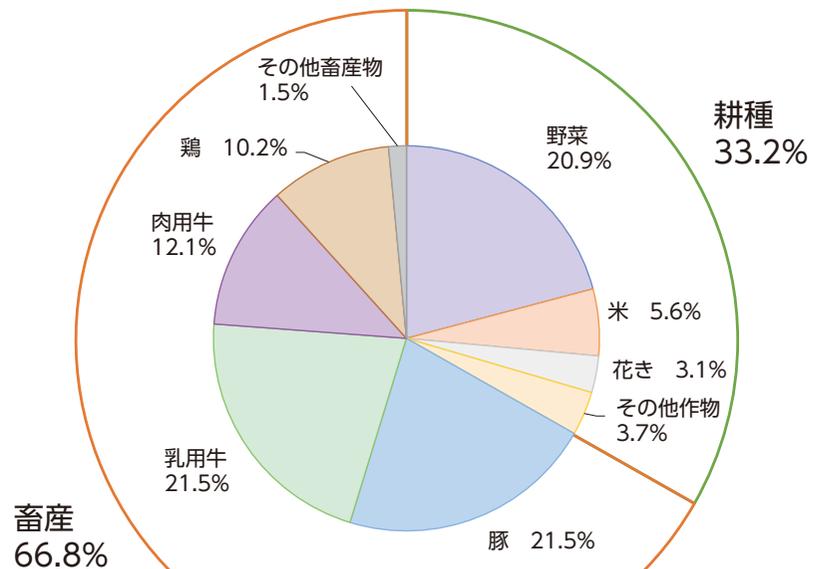
全国トップクラスの農業産出額を誇る

前橋市は農業が盛んである。県内の市町村別での農業産出額（推計）は350.3億円（2019年）で県内トップであるだけでなく、全国でも15位と上位に位置している。産出額の約67%（250億円）は畜産で、豚が約22%で最も多く、乳用牛（約21%）、肉用牛（12%）がそれに続く。他方、耕種は33%で、野菜が約21%となっており稲作よりも畑作が中心となっている。

市町村別での農業産出額（2019年）



前橋市の農業産出額の種類別シェア（2019年）



「市町村別農業産出額（推計）」より作成

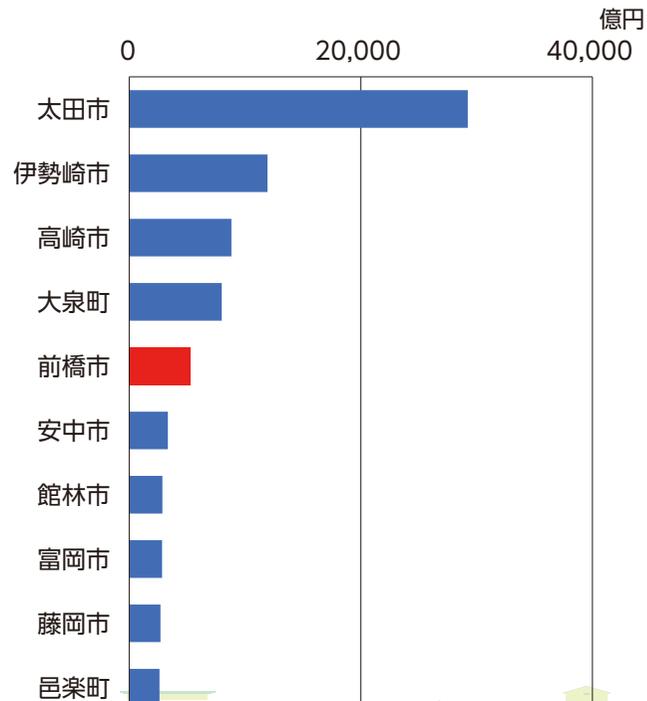
「市町村別農業産出額（推計）」より作成

製造業

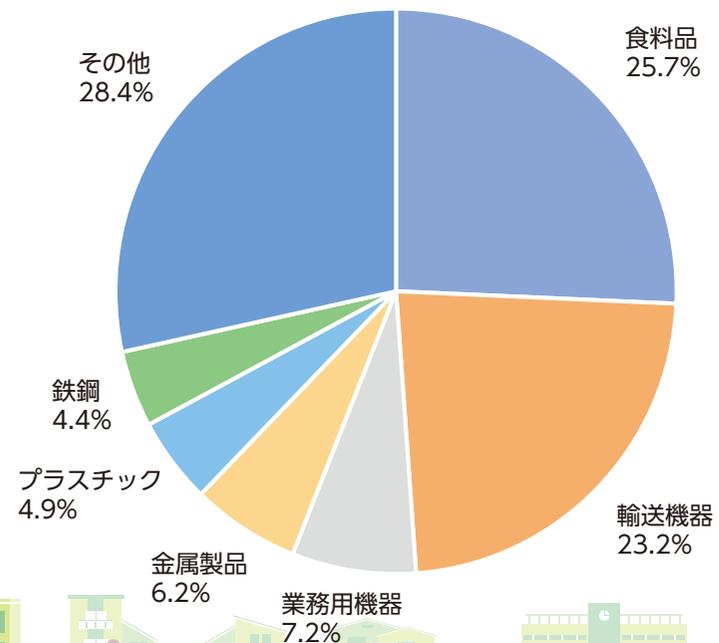
製造品出荷額等は食料品、輸送機器でおよそ半分を占める

前橋市の製造品出荷額は約5,306億円（2018年）。県内で見ると太田市、高崎市、伊勢崎市、大泉町に次いで5番目である。業種別で見ると食料品（25.7%）、輸送機器（23.2%）、業務用機器（7.2%）の順で多く、事業所数では食料品、金属製品、印刷、家具、輸送機器、繊維の事業所数が多いのが特徴である。事業所数では417ヶ所（4人以上）で、10年前と比べて約100ヶ所減少している。

市町村別での製造品出荷額等（2018年）



前橋市の業種別製造品出荷額等のシェア（2018年）



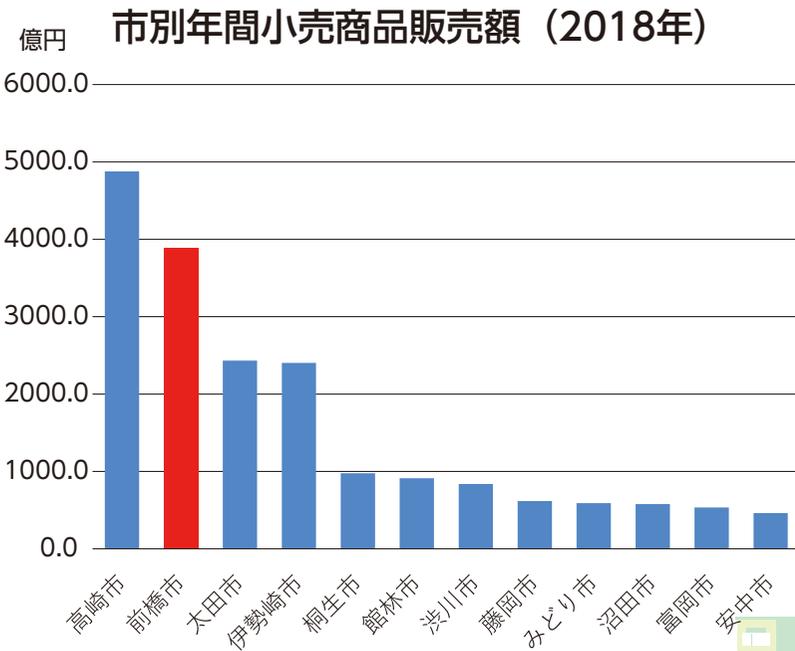
「前橋市統計書（前橋市）」より作成

「前橋市統計書（前橋市）」より作成

商業

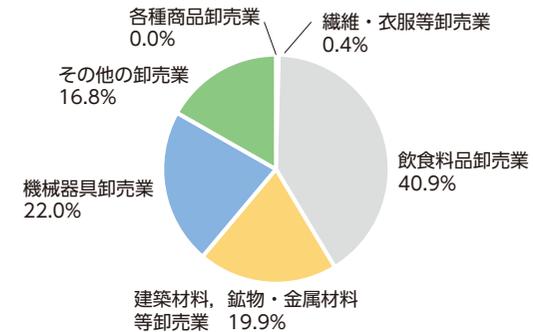
卸売業と小売業の比はおよそ6：3

年間商品販売額は約1兆1,478億円である。卸売業が約66%、小売業約33%となっており、卸売業の割合が高い傾向にある。このうち、小売業の年間商品販売額は、3,889億円が高崎市に次いで2番目である。卸売業は、飲食料品卸売業が40.9%で最も多く、次いで、機械器具卸売業が続く。小売業は、その他の小売業が最も多く、機械器具小売業、飲食料品小売業が次いで多い。

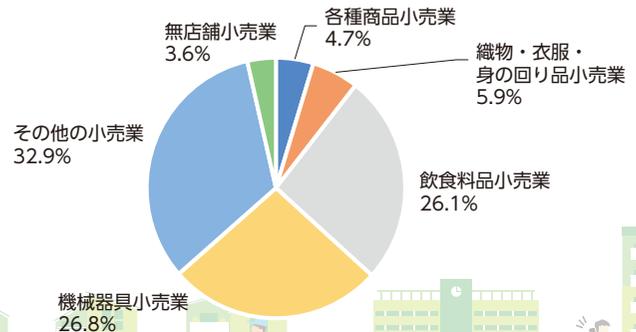


「平成28年経済センサス活動調査結果（卸売業・小売業）」より作成

年間商品販売額（卸売業）のシェア（2018年）



年間商品販売額（小売業）のシェア（2018年）



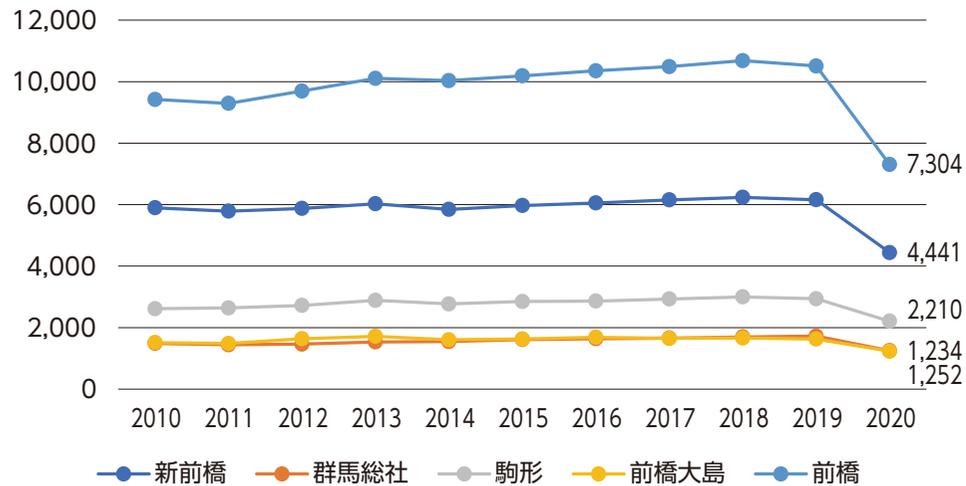
「平成28年経済センサス活動調査結果（卸売業・小売業）」より作成

交通

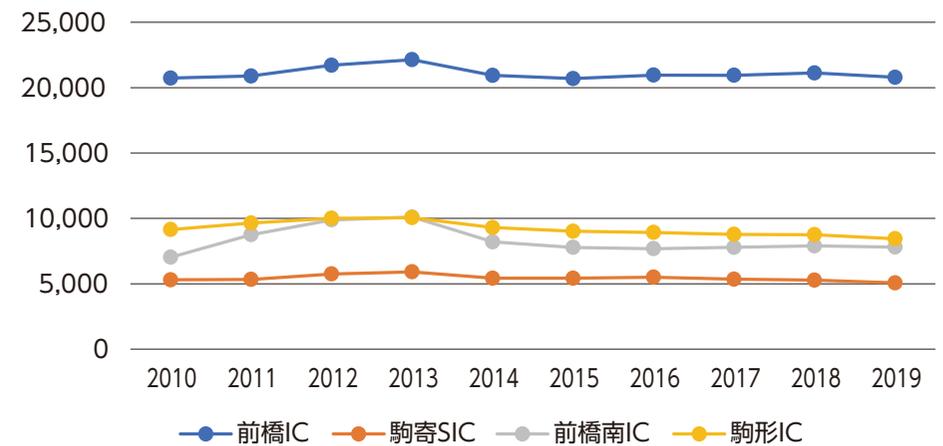
コロナ禍により鉄道利用者の大きな減少がみられる

市内JRの各駅の利用者は、前橋駅、新前橋駅、駒形駅、前橋大島、群馬総社の順で多い。ここ10年間はやや微増傾向にあったが、コロナ禍となって利用者数が軒並み約3割減少した。JR前橋駅の乗降者数は2019年の10,511人から翌年は、7,304人となった。市内の高速道路インターチェンジの一日平均の出入交通量は、前橋ICが2万台強、駒形ICが8千台強、前橋南ICが8千台弱、駒寄SICが5千台で推移している。

市内JRの駅利用者数の推移（人）



前橋市内高速道路インターチェンジの一日平均出入交通量（台）



「群馬県統計年鑑」より作成

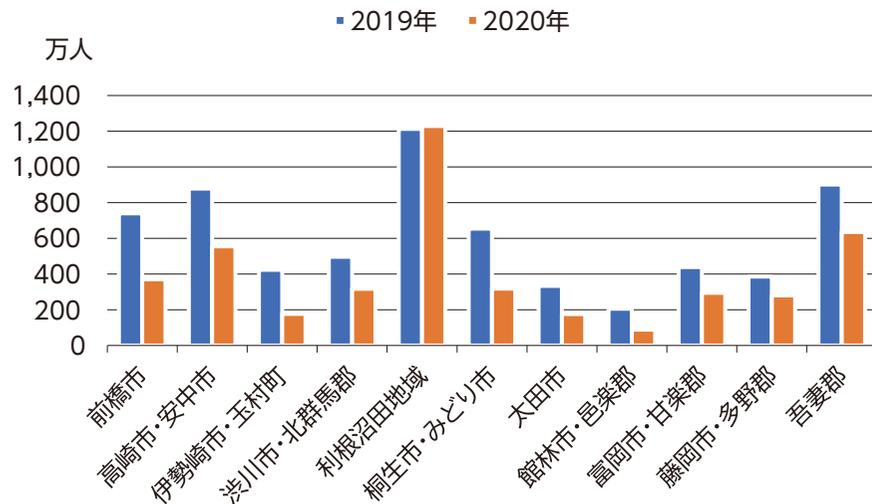
「群馬県統計年鑑」より作成

観光

コロナ禍の影響が色濃く出る

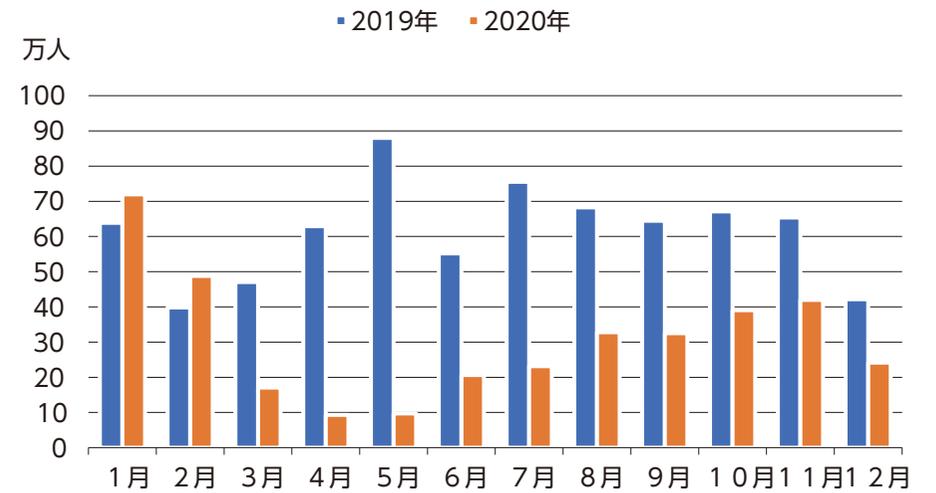
前橋市の観光入込客数は、コロナ禍前の約740万人（2019年）であったが、その後約371万人（2020年）と半分に落ち込んだ。都市圏別では、利根沼田地域、吾妻郡、高崎市に次いで4番目である。前橋市で月別の観光入込客数は、コロナ禍前では5月が最も多く、夏から秋にかけてコンスタントに入込客数が推移する傾向にあった。コロナ禍となった2020年は、初の緊急事態宣言が出される直前から顕著に減少に転じており、従前のような回復までには至っていない。

都市圏別観光入込客数（推計）の変化



〔群馬県観光客数・消費額調査（推計）結果〕より作成

前橋市の月別観光入込客数（推計）の変化



〔群馬県観光客数・消費額調査（推計）結果〕より作成

医療

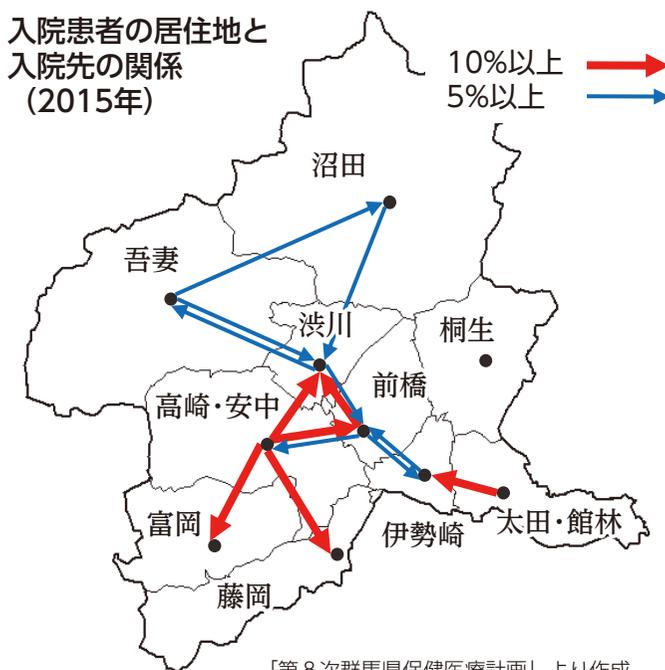
人口10万人あたりの医師数が多い前橋市

前橋市では医療機関が充実しており、市内には18の一般病院、337の一般診療所、201の歯科診療所がある。特に、人口10万人あたりの医師数では、466.9人で政令指定都市・特別区・中核市の中では5位である。また、群馬大学附属病院、前橋赤十字病院をはじめとする県内の3次医療、高度救急救命センター、基幹災害拠点病院が群馬県庁を中心とした半径5km圏内に集積しており、県内一円はもとより県外からも患者が集まっている。

前橋市の病院・診療所の施設数・医師数・歯科医師数・薬剤師数（2020年）

※10万人あたりのランクは、政令指定都市・特別区・中核市81団体の中での順位

	一般 病院数 (施設)	一般 診療所数 (施設)	歯科 診療所数 (施設)	医師数 (人)	歯科医師数 (人)	薬剤師数 (人)
数	18	337	201	1,580	315	943
10万人 あたり	5.4	101.5	60.5	466.9	92.0	265.1
10万人 あたり ランク	45	16	19	5	22	31

入院患者の居住地と
入院先の関係
(2015年)

「第8次群馬県保健医療計画」より作成

「医師・歯科医師・薬剤師統計」より作成

前橋商工会議所 まちづくり推進委員会 名簿

(任期：R1.11.1～R4.10.31)

委員会役職	氏名	会社名	会社役職	備考
委員長	小林 要一	小林工業(株)	代表取締役会長	副会頭
委員	石井 繁紀	(株)石井設計	代表取締役社長	交通政策専門委員会 委員長
委員	小野里 拓也	小野里工業(株)	代表取締役	安心・安全なまちづくり専門委員会 副委員長
委員	角張 智之	(株)ヤマニ熱工業	代表取締役	安心・安全なまちづくり専門委員会 委員長
委員	國岡 充朗	浅香運輸(株)	代表取締役	交通政策専門委員会 副委員長
委員	小林 幹昌	(株)勝山工務所	代表取締役所長	安心・安全なまちづくり専門委員会 副委員長
委員	田中 仁	(株)ジンスホールディングス	代表取締役CEO	市街地活性化専門委員会 副委員長
委員	西川 定男	(株)西建	代表取締役会長	市街地活性化専門委員会 副委員長
委員	宮下 学	宮下工業(株)	代表取締役	交通政策専門委員会 副委員長
委員	吉岡 慧治	三陽技術コンサルタンツ(株)	取締役会長	市街地活性化専門委員会 委員長

(五十音順・敬称略)

前橋商工会議所 まちづくりビジョン 2022-2025

Well-being な前橋
～暮らしやすいまち

発行者 前橋商工会議所（担当部：産業政策部）
〒371-0017 前橋市日吉町1丁目8番地1
Tel.027-234-5111（代）
URL:<http://www.maebashi-cci.or.jp/>
印刷所 朝日印刷工業株式会社



前橋商工会議所

